



フロントリップスポイラー 42,000円は、センターに開口部を設けて、別体式に見えるデザイン。エッジの効いたフォルムを実現させた。



組み合わせるホイールは、WORKデュランダル。サイズは16inchだ。6J +38.1のリムに165/40R16サイズのタイヤをセットする。



リアバンパースポイラー 53,000円。RUMIF特製のディフューザーや3Dジェネレーターフィンを導入。86バックフォグとの一体感にも注目！



サイドパネル 55,000円は立体的なフォルムを一層突き立てる3本の3Dラインが特徴で、リアエンドにかけての跳ね上がりが躍動感を演出。

価格は税別

**2015**  
NEW COLOR  
**HIJET**



# ジャンボだけに的を絞った拘りのフォルムに注目!

数ある軽トラックの中で、ハイゼットのジャンボだけに照準を合わせて開発されたRUMIFのボディキット。通常よりキャビンが大きくベッドが短いジャンボの特性を、どう料理するか? が腕の見せ所だ。

●produced by Car Service FRIENDS (http://www.friends-2007.com/)

●ベース車両: DAIHATSU HIJET JUMBO

## CAR SERVICE FRIENDS

カーサービスフレンズ

プリウスやプリウスαなどのハイブリッド開発で有名なトヨタ(ルイ)、ハイブリッドなイメージが強いトヨタから、軽トラ専用エアロパーツがリリースされるとは正直驚いた。話を聞くと、開発は全同社スタッフの精進。一人が手掛けたと言う、実は村治さんはフライトで軽トラに乗り、日々カスタムに没頭する生粋の軽トラフリーク。その後が、社用車に仲間入りしたハイゼットジャンボを見て、「このエアロを製作したい!」と社長に直談判したのが開発のキッカケだ。

今回のエアロの特徴はやはり、ジャンボに特化したオンリーワンラインナップ。そしてRUMIFと言えば、高性能キャブナーによるスキャンクと、そのデザインをもとに行なわれる3次元CADを使った立体的なデザイン、また精度の高いフィッティングを得意としているが、その手法がこのハイゼットジャンボのエアロパーツにもしかり活かされているのだ。



●RUMIF フロントリップスポイラー/サイドパネル/リアバンパーポイラーの3点セット 145,000円(税別)  
○オプション: TOYOTA86純正バックフォクオープン

パネルは3Dで引かれたラインが、タテクスカラで引かれたライン、両方に跳ね上がることでスポーティな印象を与えている。ホイールもサイドパネルにけず、ホイールハブの強いものをセレクト。リアには、ティファニーカラーの3Dフェニックスを投入し、TOYOTA86のバックフォクランプとの相性を検討した。

軽トラフリーク入魂とあって、一言も路線がハズレなく、RUMIFのハイゼットジャンボ、RUMIFの今後の展開に目を離せない。



ジャンボと異色のツーショットを披露したRUMIFだが、リクライニング可能なキャビンを持つトラックと重なり点では共通している。